

官廳公示連絡事項

幼稚園教育理解のために

— 小学校学習指導要領社会科篇の改訂 —

幼稚園教育のねらいとしている

「園内において、集団生活を経験させ、喜んでこれに参加する態度と協同、自主及び自律の精神の芽生えを養う。」

身辺の社会生活及び事象に対する正しい理解と態度の芽生えを養う。」

指導から小学校教育のねらいとしている

「学校内外の社会生活の経験に基き、人間相互の關係について、正しい理解と協同、人間相互の關係について、正しい理解と協同、自主及び自律の精神を養う。」

郷土及び国家の現状と伝統について、正しい理解に導き、進んで国際協調の精神を養う。

日常生活に必要な衣、食、住、産業等について、基礎的な理解と技能を養う。」

までに發展していく過程を明らかにするとともに、小学校教員に幼稚園教育を理解させ、幼稚園に就学した幼児にはその経験を生かした指導がなされるようにするため、このたび小学校における学習指導要領（コースオプスタデー）が改訂されたのを機会として、その各篇に幼稚園の項を加えることになった。

これはたんに小学校の教員ばかりでなく幼稚園の教員も十分研究して、これを教育課程の構成や指導に生かしていく必要がある。以下社会科篇に示されている幼稚園の項と小学校第一学年の項とを摘記してみる。

「このころの幼児は好奇心が強く、手足や感覚器官を盛んに動かして周囲の事物に触れたり、その名前を知りたがったり、用途を知ることに興味をもつたりする。自己を強く主張し、じぶんのしている事をじやまされれば強く怒るというようなこともあるが、社会的協同性もしだいにめばえてきて、他のこともと協同して遊んだり仕事をすることを好むようになる。ことに、ごっこ遊びを好み、これによつておとなの生活をまねることに興味をもつ。まだ想像の世界と現実の世界とがじゆうぶんに分化していないので、ごっこ遊びによつておとなの生活を細かいところまで忠実に表現しようとはしないし、使う道具などもきわめて簡素なもので満足し、たとえば積木に用いる木片を押したり引いたりして、汽車や電車を動かしているつもりになつたりするが、このような遊びを通じて、おとなの仕事や事物の用途などをしだいに理解していくのである。幼児たちはこれらの経験を言語や絵画によつて表現することは、まだじゆうぶんにできないか、ごっこ遊びが最もよい学習の方法であろう。」

したがって幼稚園では、おうちごっこ、おきやくごっこ、お店ごっこ、乗物ごっこなどによつて、おとなの仕事や、周囲の事物の用途などを、ごくおおまかに、初歩的に理解させるとともに、次にあげるような生活態度を養うことをめざすべきであろう。

○仕事のしかたをよく守る。

○仕事をやりとげる。

○自分から進んでやる。
○材料や道具を分け合つて使う。

○物や道具をたいせつにする。

○遊び方や道具の使い方をくふうする。

○ひとと仲よく遊ぶ。

○ひとの物を大事にする。

○順番をよく守る。

○ひとに迷惑にならないように静かにする。

○憤みのある動作や態度がとれる。

○ひとに親切にする。

○公正に遊びや仕事をする。

○責任をもつて分担した仕事をする。

○ひとに協力する。

小学校第一学年

「一年の児童は盛んに、手や足を動かし、感覚器官を通じて周囲の人々や事物に触れようとする。そしてそれらの名前を知りたがり、その役割用途についても簡単なものは知ろうと努める。特に始めて学校にはいつたので、通学の途上でも、学校の中でも、目に触れる事物はみな珍らしいのである。

いずれにせよ、かれらはあらゆるものに好奇心をもち、それらについて知り、それらと親しもうとしている。そしてひとたび自分の家庭以外の学校や通学路上で触れる人や事物について知つたり、友だちの家庭の人々と知り合つたりすると、新しい関心をもつてじぶんの家庭をながめるようになるであらう。

したがつて、家庭や学校などで接する人や事物について、児童相

応の知識理解をもたせ、これに慣れさせ親しませるには、どうすればよいかということが、一年生指導の重点であらう。

目 標

○おとなはみな何かの仕事をもっている。

○家の人たちはみな何かの役割をもっている。

○親は常にこどものために配慮している。

○家ではわたくしたちの衣食住など毎日の暮しの世話をしてくれらる。

○家の人々は植木、作物、家畜などの世話をしている。

○人々は家庭や学校でみんな楽しんで生活をするためにいろいろな行事をしたり施設を設けたりする。

○互に親切を尽し合えばわたくしたちの生活は楽しくなる。

○規則をよく守れば楽しく遊ぶことができる。

○注意して物を整頓したり、飾つたりすれば、家庭や学校をもつと美しくすることができる。

○家庭や学校では健康と安全のために必要な施設を設けている。

○からだがじょうぶであると、楽しい生活ができるようになる。

○人々は種々の交通機関によつてゆき来したり、物を運んだりする。

○ほかの人といつしよに生活するためには時間をよく守ることがたいせつである。

○ほかの人といつしよに生活するためには、決して人に迷惑をかけるはならない。

(文部省初等中等教育局)